

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)**  
**成果報告書**

団 体 名	公益財団法人 山本能楽堂	
施 設 名	山本能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	15,112	(千円)
公演事業	9,028	(千円)
人材養成事業	1,191	(千円)
普及啓発事業	4,893	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	初心者のための上方伝統 芸能ナイト	R1年10月12日	演目：能「高砂」、素浄瑠璃「相生の 松」山村友五郎、豊竹呂勢太夫他	目標値	945
		山本能楽堂		実績値	890
2	たにまち能	H31年4月6日	演目：素謡「雲林院」森本哲郎、狂 言「左近三郎」茂山忠三郎、能「熊 野」山本章弘他	目標値	540
		山本能楽堂		実績値	505
3	光と照明による能舞台の 陰翳	R1年8月23日	演目：「小鍛冶」 出演：山本章弘、照明：藤本隆行	目標値	135
		山本能楽堂		実績値	125
4	とくい能	R1年6月1日	演目：「鶺鴒」 出演：山本章弘 吉井基晴 大西礼 久 福王知登 守家由訓 他	目標値	540
		山本能楽堂		実績値	527
5	猿 申 さる	R1年7月9日	出演：桂南光 豊竹呂太夫 鶴澤清 介 鶴澤清公 山本章弘 小佐田定 男	目標値	135
		山本能楽堂		実績値	130
7	神・男・女・狂・鬼（仮）	R2年3月7日	コロナウイルス感染防止のため中止	目標値	135
		山本能楽堂		実績値	0
8	シビウ国際演劇祭総監督 キリアックによる一人芝 居	R1年10月28日	演目：「エミネスク、僕の友、兄弟よ 出演：コンスタンティン・キリヤッ ク	目標値	270
		山本能楽堂		実績値	62
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	



(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ストリートライブ能	H31年4月6日	演目：「田村」 出演：山本章弘 今村一夫 他	目標値	1000
		中大江公園		実績値	900
2	花と芸能	R2年2月8日	演目：「羽衣」 出演：山本章弘、吉井基晴 他 いけばな：赤井勝	目標値	135
		山本能楽堂		実績値	134
3	能の身体文化と現代舞踊 の身体性が拓く可能性 (仮)	R2年3月20日	コロナウイルス感染防止のため中止	目標値	135
		山本能楽堂		実績値	0
4	アートによる能案内	R2年3月20日	コロナウイルス感染防止のため中止	目標値	60
		山本能楽堂		実績値	0
5	能と遊ぼう！	R1年12月26日	講師：山本章弘、前田和子 他	目標値	90
		山本能楽堂		実績値	140
6	高校DE能楽うたい隊(仮)	R2年2月5日	演目：「羽衣」 出演：山本章弘、古田知英 他	目標値	200
		興国高等学校		実績値	800
7	出前能	R2年2月13日	演目：「高砂」 出演：山本章弘、守家由訓 他	目標値	100
		ゆめパラティース		実績値	120
8	山本能楽堂・インターナシ ヨナルデイ	R2年2月7日	出演：住野泰士、山本条太、山本章 弘 他	目標値	160
		山本能楽堂		実績値	81
9	大大阪時代と芸能文化(仮 称)	R1年10月27日	出演：河内厚郎	目標値	100
		山本能楽堂		実績値	200
10	文楽と東欧の人形劇との 出会いと創造(仮)	R1年8月30日	出演：マヤ・ベジャンスカ、能勢人 形 人形浄瑠璃 鹿角座、人形劇団 クラルテ) 山本章弘(観世流能楽師)	目標値	-
		山本能楽堂		実績値	79
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価													
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。													
<p>山本能楽堂は、太閤秀吉が作った当時の町割りのままである大阪城の武家屋敷地区に位置し、大阪市の中心部の官庁街で90年以上能の普及と継承を行ってきた文化施設である。大阪は、秀吉が能の魅力に傾倒し、「見るだけ」でなく「自ら能を舞う楽しみ」を見出して以来、「嗜む文化」が形成され、その後、文楽、上方歌舞伎、落語、講談、浪曲など、多彩な上方伝統芸能が生まれ、育まれた「文化集積都市＝芸能の都」である。当能楽堂では、約15年前より、これらの上方伝統芸能を貴重な地域遺産として捉えなおし、この「芸能の都」の側面を広く国内外に周知し、観光集客に活かし、地域振興につなげるべく活動を続けてきた。また、大阪を訪れる観光客も、コロナウィルス被害拡大防止のための対策がとられる以前は、急増しており、国際都市・大阪として、大阪に伝わる伝統芸能・文化を発信するための事業も多く実施した。さらに、次の未来に向かって、伝統芸能で社会包摂に取り組むべく、先駆的、実験的に事業も行い、可能性を開拓した。そして、地域の特性に基づき、下記の社会的役割をミッションとして事業を組み立て、16事業52公演を実施した。</p> <table border="0"><tr><td>① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承</td><td>(12事業 40公演 実施)</td></tr><tr><td>② 時代に生きる芸術創造の場</td><td>(7事業 26公演 実施)</td></tr><tr><td>③ 「芸能の都・大阪」としての地域の魅力発信</td><td>(10事業 28公演 実施)</td></tr><tr><td>④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育の場</td><td>(5事業 24公演 実施)</td></tr><tr><td>⑤ 国際文化交流・相互理解の推進</td><td>(5事業 14公演 実施)</td></tr><tr><td>⑥ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂）</td><td>(3事業 6公演 実施)</td></tr></table> <p>(21事業58公演を予定していたが新型コロナウイルスの被害拡大防止のための自粛要請により中止となった)</p>		① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承	(12事業 40公演 実施)	② 時代に生きる芸術創造の場	(7事業 26公演 実施)	③ 「芸能の都・大阪」としての地域の魅力発信	(10事業 28公演 実施)	④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育の場	(5事業 24公演 実施)	⑤ 国際文化交流・相互理解の推進	(5事業 14公演 実施)	⑥ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂）	(3事業 6公演 実施)
① ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承	(12事業 40公演 実施)												
② 時代に生きる芸術創造の場	(7事業 26公演 実施)												
③ 「芸能の都・大阪」としての地域の魅力発信	(10事業 28公演 実施)												
④ 豊かな文化芸術による人材育成・教育の場	(5事業 24公演 実施)												
⑤ 国際文化交流・相互理解の推進	(5事業 14公演 実施)												
⑥ 文化芸術の多様な価値の創出（社会包摂）	(3事業 6公演 実施)												
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。													
<p>大阪は「芸能の都」であるが、昨今、その歴史的に育まれてきた文化的な側面は薄れ、「下品で訪れたくないまち」「危険で文化のかけらもないまち」といったステレオタイプ化されたイメージばかりが先行する。そこで、当劇場では、約15年前より、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光局と協働で、これらの上方伝統芸能を貴重な地域資源と捉え直し、大阪に伝えられてきた「本物の伝統芸能」を観光と結びつけ、地域活性化につなげることができるよう取り組んできた。そのため、以下の成果をあげることができた。</p> <table border="0"><tr><td>① 地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、多彩な演者と連携し、ネットワークを構築し公演を継続して実施することで、情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげることができた。</td></tr><tr><td>② 上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え、活性化やまちおこしを行った。</td></tr><tr><td>③ 敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。</td></tr><tr><td>④ 上方伝統芸能の鑑賞者を増やし、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げることができた。</td></tr><tr><td>⑤ 「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこない、地域住民のシビックプライドを構築することができた。</td></tr><tr><td>⑥ 青少年の育成、高齢者施設での社会包摂事業も実施し、伝統芸能が社会に生きる可能性を追求できた。</td></tr></table> <p>大阪に伝わる伝統芸能の魅力を伝え、地域振興・観光集約に活かすための事業を、約15年にわたり、継続して実施している他の団体はなく、当財団の事業によって、その魅力が少しずつ周知されたきたと自負している。助成を受けることで、活動の延長としての観光集客やインバウンドの促進を行い、まちづくりにもその視点を活かし事業を実施し、伝統芸能を社会に活かすための新たな取り組みとして、社会包摂事業も実施することができた。</p>		① 地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、多彩な演者と連携し、ネットワークを構築し公演を継続して実施することで、情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげることができた。	② 上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え、活性化やまちおこしを行った。	③ 敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。	④ 上方伝統芸能の鑑賞者を増やし、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げることができた。	⑤ 「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこない、地域住民のシビックプライドを構築することができた。	⑥ 青少年の育成、高齢者施設での社会包摂事業も実施し、伝統芸能が社会に生きる可能性を追求できた。						
① 地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、多彩な演者と連携し、ネットワークを構築し公演を継続して実施することで、情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげることができた。													
② 上方伝統芸能を国内外の観光集客にも活かすことで、地域の発展を支え、活性化やまちおこしを行った。													
③ 敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げ、地域住民の鑑賞活動の拡大に資することができた。													
④ 上方伝統芸能の鑑賞者を増やし、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げることができた。													
⑤ 「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこない、地域住民のシビックプライドを構築することができた。													
⑥ 青少年の育成、高齢者施設での社会包摂事業も実施し、伝統芸能が社会に生きる可能性を追求できた。													

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

今年度は下記の目標を指標としてかかげ、事業を実施した。

#### (公演事業)

- ①地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、公演を通して情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげる。
- ②上方伝統芸能を観光に活かすことで、地域の発展を支える。
- ③敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げる。
- ④上方伝統芸能の鑑賞者を増やすことで、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げる。
- ⑤「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこなうことで、地域住民のシビックプライドを構築する。

#### (人材養成事業)

- ①能に興味はあるが、敷居が高いと思っている人への人材養成事業
- ②能に魅力を感じており、もっと知りたい人への人材養成事業
- ③他の文化芸術に興味ある人への能を通じた人材養成事業

#### (普及・啓発事業)

- ①能を見たことがない観客者層に向けての普及啓発事業
- ②他の文化芸術に興味がある人を能楽堂に誘導するための普及啓発事業
- ③能の動きや「型」、身体性に焦点をあてた普及啓発事業
- ④現代美術家の能に対する視点によるこどもたちへの普及啓発事業
- ⑤自発性を重視したこどもたちへの普及啓発事業
- ⑥高校に能楽師を派遣し、実演やワークショップを行うことによる教育の現場での普及啓発事業
- ⑦実演やワークショップをともなう福祉施設での普及啓発事業
- ⑧在関西総領事団と連携した、国際交流のための普及啓発事業
- ⑨外国人から見た日本の伝統芸能への視点を紹介し国際交流に活かす普及啓発事業
- ⑩能の初心者に向けたワークショップによる能の普及啓発事業（レベル1～4の段階に分けて実施する）

事業を実施することで、概ね、当初計画していた目標は達成することができた。

- ・アンケートの回収率は81%であったが、その80%以上の方から「満足した」「楽しかった」と回答を得た。
- ・参加者が大阪市内だけでなく、大阪府下、関西一円ならびに東京や九州等全国からの広域にまたがった。
- ・外国人観光客の全体の観客に占める割合は16%であった。
- ・外国人観光客からのアンケートで80%以上の満足度を獲得した。
- ・参加者の中に占めるリピーターの割合は約50%となった。

ただし、新型コロナウイルスの被害拡大防止のための大阪府、大阪市からの要請により、普及・啓発事業の③（「能とノイズム」公演）ならびに④（「アートによる能案内」公演、ならびに、当能楽堂として先駆的に取り組み始めたLED照明演出による朝から夕方までの光の演出の中で、能の五番立ての演目をダイジェストで次々に上演する「神・男・女・狂・鬼」公演は中止としたため、企画を行うことはできたが、公演が開催できず、当初の目的を達成することができなかった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### **■アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。**

平成31年度は、21事業58公演を計画していたが、新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、大阪府・大阪市から自粛要請が出たため、16事業52公演を実施した。事業期間に関しては、計画当初の事業期間と確定した事業期間は、計画通りに実施することができた。

公演事業の中の「シビウ国際演劇祭総監督キリアックによる一人芝居」ならびに、普及啓発事業の「文楽と東欧の人形劇との出会いと創造」公演に関しては、出演者が海外在住(ルーマニア/ブルガリア)であるため、来日日程が間際まで確定できず(中国・韓国でのツアーの予定が確定しなかったため)、アウトプットに対して事業期間が短くなってしまい、十分な広報活動を行うことができなかった。しかしながら、間際のリリースであったにもかかわらず、読売新聞紙面では取り上げて頂くことができ、公演当日も多くのメディア関係者の関心を集め、自発的に公演に参加していただくことができた。3月に予定していた「神・男・女・狂・鬼」、「能とノイズム」、「アートによる子供のための能案内」公演は、当財団の独創的な企画であり、準備を整え、アウトプットに対する事業期間も適切であり、各紙の新聞紙面での掲載の確約を得ていたが、新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、大阪府・大阪市から自粛要請が出たため、やむをえず中止となり、大変残念な結果となった。

#### **■アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。**

公演事業、人材養成、普及啓発事業ともに、当初の事業費より少ない事業費となった。

新型コロナウイルスの被害拡大防止のため、大阪府・大阪市より自粛要請があり、出演者の手配、チラシの作成と周知、舞台スタッフ、公演スタッフの手配まで行っていたが、「ストリートライブ能(3月3日開催予定分)」、「神・男・女・狂・鬼」公演、「能とノイズム」公演、「アートによる能案内」、「能活(3月開催予定分)」が急遽中止となり、事業費が大幅な削減となった。

また、新型コロナウイルスの被害拡大防止のための自粛要請が発令されたため、3月に実施予定の公演は全て中止となり、事業期間は4月から2月となったが、年間を通して多様な伝統芸能や舞台芸術、生活文化等の芸術を様々な角度から取り上げ、海外からアーティストも参加し、16事業を52公演を実施し、能をはじめとする上方伝統芸能の魅力を広く周知し、文化の力により地域の活性化を行うことができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当能楽堂は、大阪に伝わる伝統芸能の普及・啓発、情報発信に特化した文化拠点である。通常、能楽堂は能・狂言の専用劇場として機能しているが、当能楽堂では大阪に地域に根差した活動を行っており、能をベースにしながらも、大阪で育まれた文楽、上方舞、落語、講談、浪曲等の上方伝統芸能全般の活性化を行うことで、「開かれた能楽堂」として、上方伝統芸能に携わる演者同士のネットワークを作り、当能楽堂から新たな芸術創造が生まれる役割を担っている。

また、現代アートやコンテンポラリーダンス等、他ジャンルの優れた芸術家の視点と能楽を組み合わせコラボレーションを行うことで、芸術性、新規性の高い世界を開拓し、お互いの芸術に相乗効果をもたらしてきた。

近年、海外公演を積極的に毎年行う中で、ヨーロッパ最大規模となったルーマニアのシビウ国際演劇祭に5年連続で招へいされ、公演を実施し、大きな称賛を得ている。これらの実績により、大阪の小さな能楽堂が世界の舞台芸術とつながり、シビウ国際演劇祭総監督・コンスタンティン キリヤック氏を招いての公演を実現することができた。公演の当日は、新聞記者や大阪の文化関係者が多く集い、交流を深める場となった。さらに東ヨーロッパは歴史的に人形劇が盛んであるが、今回の事業ではブルガリアで人気の人形劇を招き、大阪に伝わる人形浄瑠璃や日本を代表する人形劇団とその違いを見比べるコラボレーション公演を行ったが、双方にとって大変意義深い公演となった。

#### (1) 公演事業について

①上方伝統芸能の他ジャンルの演目をショーケース的に、オムニバスに定期的に15年近く継続して公演を行っている文化施設は他にはない。事業を開始した約15年前には公演に対する批判的な意見もあったが、現在では同様の活動が全国に広がっており、先導してきた自負がある。大阪に根差した伝統芸能の文化拠点として、大阪でしかできない公演を継続して実施し、活性化をおこなうことができた。

②さらに、上方伝統芸能に関する公演を実施していく中で、新たなコラボレーションによる企画公演が生まれ、他の地域では実現しにくい様々な公演を実施し、地域固有の文化拠点として、その役割を果たすことができた。

③「神男女狂鬼」公演は、能の五番立ての歴史とLED照明演出による日中の光の移ろいを組み合わせた芸術性、創造性、新規性の高い公演であり、初心者ならびに外国人も理解しやすく、大きな可能性を秘めた、能楽の次代への普及を見据えた先導性の高い事業であるが、新型コロナウイルスの被害拡大防止のため中止となった。

#### (2) 人材育成・普及啓発事業について

①能の普及啓発のために公共空間で不特定多数の方に向けておこなう「ストリートライブ能」の活動は15年以上継続して実施しておりこれまでに大阪市内の100ヵ所以上で公演を重ねてきだが、昨今では東京、京都、福岡など他地域でも同様の取組があり、先導的な事業であったと振り返っている。

②能の普及啓発の体験講座として様々な切り口の独自の観点から4種類の事業を38回、こども向けに3事業を5回実施しているが全国的に見てもこれ程までに能の普及啓発事業を実施している団体はあまりなく、上方伝統芸能が生まれ、育まれてきたこの地域の文化施設ならではの事業である。

③最高峰の華道家や世界的に評価の高いコンテンポラリーダンスのノイズム等、他ジャンルの優れた芸術家の視点と能楽を組み合わせコラボレーションを行うことで、芸術性、新規性の高い世界を開拓し、お互いの芸術に相乗効果をもたらし、地域の文化拠点としてその魅力を最大限に発揮することができた。

④社会包摂の視点から、特別介護老人ホームで公演を実施したが、おそらく能の世界では初めての取組であり先導性の高い事業である。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

- 1、山本能楽堂は、能・狂言の専用劇場であるが、約15年前から、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光局と協働で、大阪に伝わる能、狂言、文楽、上方舞、落語、講談、浪曲などの上方伝統芸能を貴重な地域資源と捉えなおし、それぞれの芸能の面白い部分のみをオムニバスに次々と上演する「初心者のための上方伝統芸能ナイト」公演を継続して実施している。古典芸能の公演は通常は数時間から半日程度かかることが多く、初めての方には敷居が高く、その魅力が伝わりにくいため、各芸能のショーケース的な公演を実施することで、上方伝統芸能の新たなファン層を構築することを目的としている。公演当日には、各芸能の本芸の公演チラシや公演情報も配布し、興味を持った伝統芸能の会場へ誘導する仕組みとなっている。これまでに約180公演を実施してきたが、「初心者のための上方伝統芸能ナイト」公演によって、あるいは、この公演をプラットフォームにして新たに生まれた企画や公演によって、大阪の実演芸術等が振興され、地域の文化芸術の発展につながったと自負している。
- 2、これまでに、能・狂言はもちろん、筑前琵琶、文楽（太夫、三味線、人形遣い）、上方舞、落語、講談、浪曲、女道楽、お座敷遊び、地歌・長唄等の演奏者、神楽、奇術、活動写真、声明などの伝統芸能に加え現代アート、現代演劇、ブレイクダンス、デザイナー、人形劇、華道家、茶道、着付、朗読家、クラシックの音楽家など、のべ年間約300人のジャンルの異なる上方伝統芸能の演者が出演し、交流を深め、新たな芸術の創造の場ならびに情報発信の場として機能しており、地域の文化芸術の発展につなげている。
- 3、山本能楽堂は1927年に創設された大阪市で最も古い能楽堂であり、90年以上大阪における文化振興の役割を継続して担ってきた。定期公演である「たにまちな能（旧山本定期能）」は昭和25年以来継続して開催している伝統的な能の公演である。90年以上継続して能の普及と啓発に携わってきた歴史を活かし、近年は、上に記載させて頂いた通り、大阪の貴重な地域遺産である上方伝統芸能全体の発信基地ならびに普及・啓発施設としての大きな役割を担っている。伝統芸能はもともと現在のような大きなホールではなく、芝居小屋で演じられてきた。客席と舞台の距離が近く、演者の息づかいや汗が間近で感じられる空間で見てこそ、伝統芸能の良さやその表現方法や内容について理解をお客様に深めて頂くことができる。大阪は、1920年に大阪大空襲で町全体が焼けており、伝統的な木造建築はほとんど残っていない。その中で、山本能楽堂は貴重な存在であり、その場所としての機能を最大限に発揮し上方伝統芸能の普及・啓発につとめている。同時に、最新のテクノロジーであるカラーLED照明を導入する等、歴史の陰影が刻まれた空間を舞台として、最先端技術と能楽との融合にも取り組み、地域の文化振興の発展に取り組んでいる。
- 4、次代を担う子供たちへの、普及・継承事業も積極的に行い、これまでにのべ約8万人の子どもたちに能の魅力を伝えてきた。「アートによるこどもたちのための能案内」事業では、現代美術家とのコラボレーションにより、現代美術家の視点を通して、子供たちが造形遊びを行い、能の独創的な世界観を体感する事業であるが、現代美術家もこの事業を通して、能の視点を自身の作品づくりに活かすことができ、双方の活性化につながっている。
- 5、2025年大阪万博に向けたヒアリングを受け、大阪で育まれた伝統芸能を活用することを要望し、さらに、東京オリンピック2020年の聖火ランナーの応援のためのプロジェクトで上方伝統芸能の魅力を発信するなど、絶えず、地域の貴重な文化遺産としての上方伝統芸能の情報発信につとめ、地域の文化芸術の発展につなげている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

年間を通して、事業を実施することで、地域の実演芸術等の振興や地域の文化芸術の発展に寄与することができ、組織活動が持続的に発展することができた。

#### (事業運営について)

これまで、能楽堂の運営は、能楽研究者や能楽師の見習（内弟子）、家族が中心となり行われることが多かったが（山本能楽堂も約20年前にはそのような事業運営であったが）、演劇の企画・制作の熟練者や文化財団、規模の大きなホールの運営経験者をスタッフに迎え組織を構築・強化し、定例会議を実施し、PDCAサイクルを回すことで、機能強化され、運営が飛躍的に改善した。さらに、文化・芸術に携わる者を非正規雇用者として雇用することで、新たな視点が事業運営に取り込まれた。さらに銀行勤務を定年退職した者を経理に迎え、外部監査の的確な指導を受けることで、組織が継続的に改善し、機能が強化された。さらに、職員が、芸術団体や商工会議所、NPO団体、文化庁等が主催のセミナーや講習会、研修会ならびに勉強会に積極的に参加し、組織内部でのキャリアパスに取り組んでいる。特に、創造都市ネットワーク日本の活動に参加し、全国の先駆的な事例を参考にし、事業運営にその視点を取り入れている。

#### (演者・芸術家ならびに劇場・音楽堂間のネットワークの形成)

事業を実施する中で、伝統芸能はもとより、西洋音楽、コンテンポラリーダンス、ブレイクダンス、人形劇、現代美術家、茶道家、華道家など幅広い人的ネットワークを構築し、常に新しい芸術創造の可能性を追求している。さらに、「むりやり堺筋演劇祭」に参加し、関西にある劇場間のネットワークを構築している。近年は、滋賀県文化振興財団や茅ヶ崎文化振興財団、茨木市文化振興財団などから公演を受託するようになった。

#### (教育機関とのネットワークの形成)

事業を実施することで、活動が認められ、京都造形芸術大学、相愛大学と連携し、学生達がフィールドワークに訪れ、公演に参加する等ネットワークを形成している。また、関西大学の能楽部を指導し、後継者の育成につとめている。大阪市内の小学校、高等学校の生徒を受け入れている。

#### (経営戦略について)

年間を通じて後援会の入会の勧誘ならびに寄付者・支援者への依頼、他の助成金への申請を継続的に実施し、安定的な収益基盤をつくり財源確保できるよう取り組んでいる。事業を行い、活動に参加していただくことで、支援者への理解と、新規支援者の獲得につなげられるよう努力している。財政状況は厳しい状況が続くが、支援者の数は増加している。

#### (海外との連携/将来の人事戦略)

大阪大学大学院に能の研究のため留学してきた一人のブルガリア人ペトコ氏との出会いから、海外公演を実施し、日本と東ヨーロッパを中心とした国際文化交流を継続して実施している。これまでの8年間に、7か国、15都市で35公演を実施してきた。その中で、ヨーロッパ最大規模のルーマニアのシビウ国際演劇祭に5年連続で招へいを受け、強いネットワークを築いてきた。令和元年11月には、ブルガリアのプロブディフ市に残る古代ローマ時代の円形劇場でSDGsの実現を目指す、新作能「オルフェウス」の公演を、日本とブルガリアの共同事業で実施したが、日本経済新聞社の記者が1週間同行取材し、新聞の全面カラーで3ページの特集が組まれた。海外公演ならびに海外との文化交流は今後も継続して実施していくつもりであるが、海外の人々に能の魅力を伝えるためのノウハウや、草の根的な国際相互理解を深めるための活動が、山本能楽堂の組織活動が持続的に発展するために相互作用となり、その視点をインバウンドの推進や、初心者向けの普及・継承活動に活かしている。